

## 1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

### (2) 対話的な学び

#### こんな実践

本校児童4名，分校児童1名，近隣の小規模校児童1名の合計6名の3クラスを通信機器で結び，遠くにいながらもグループで意見交換をしながら課題を解決していく遠隔合同授業です。

実践学校 P小学校

実践学年 5学年

実践時期 6月中旬

単元・題材名 「わたしたちの生活と食料生産」

学習指導要領との関連：(2)我が国の農業や水産業における食料生産



- ビデオ通話アプリを使用し，大型モニターとノートパソコン，カメラ，スピーカーがセットされました。
- 教師から一人一人に封筒を渡された子どもたち。その中には，ある都道府県や市町村に関係した5枚の写真が入っています。その5枚の写真から，都道府県名や市町村名を決めだしていく学習が始まりました。
- まずは個人追究で，「どの写真のどの部分からどういうことが言えるのか」をそれぞれ考えます。そして，気が付いたことを黒板やホワイトボードに記入し，それをカメラで写したものをグループで見合いながら気付いたことを発表します。
- モニタには，常に他校の2人の顔が2画面で映し出され，普通に机を突き合わせてグループ学習を行っているような雰囲気です。



「ぼくは，新潟だと思うな。」「何で新潟って思ったの？」

「なんか，お米があるから，新潟かなって。勾玉もあるし…」

通信機器やアプリを通して，子どもたちが自分の考えを互いに言い合う，対話的な学びが実現しました。

- グループ学習の後、互いのグループで決め出した都道府県名や市町村名を発表しました。

本校グループの3名は、「ぼくたちのグループは、秋田か新潟になりました。どうしてかと言うと、ここ（写真の下を指さしながら）にお米があって、新潟と秋田はお米が有名なので。あと、ここに笹だんごがあるのでそうになりました。あと、新潟も秋田も新幹線が通るからそう思いました。」と発表しました。



- 3校を結んでの遠隔合同授業はこの日が初めてでした。この授業を振り返り、普段は一人だけで授業を受けている児童が、次のような感想を話しました。

「初めてグループで話し合っただけで楽しかったです。最初に米があるから新潟県だと思ったけれど、他の人も同じように新潟県だと言っていたので、自信がもてました。」

「グループの人と協力して問題を解くことができてよかったです。そのときに、自分では気付かなかったことがあったのでグループでやってよかったです。」



### ここがポイント！

- ・自分の考えが承認されることで自信がもてます。
- ・普段、教師と一対一で授業している児童が、他の児童の考えに触れることができ、新たな見方・考え方に会うことができます。
- ・映像、音声共に鮮明で、時差もないため、遠く離れていても、ひとつの教室でグループ学習をしているような協働の学びができます。
- ・小規模校同士だけでなく、小規模校と大規模校との遠隔合同授業にも応用できます。

### まとめ

- ・同じ資料を読み取る場合においても、一人よりも複数で追究する方がより多くの視点で資料を捉え、多様な考えを共有することができます。
- ・児童、生徒の協調性や社会性を身に付けるためにも、単元や場面を考えながら効果的な通信機器の活用をしていきましょう。